

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市桜の園城北館		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部静岡済生会		
指定期間	平成31年4月1日 ～ 令和4年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和3年6月4日（金）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 戸塚 直子（障害福祉企画課長） ②委員 竹田 憲司（地域リハビリテーション推進センター所長） ③委員 望月 巖（障害者支援推進課） ④委員 堀越 英宏（特定非営利活動法人 静岡市障害者協会事務局長） ⑤委員 熊澤 順子（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会員）		
評価点 (各委員平均点)	70.6点	評価	A・B・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>事業報告書等から概ね計画どおりに事業は実施されており、利用者の健康管理や施設の維持管理業務などについて適切に行われている。</p> <p>一方で、利用者数は目標を達成できていない。まずは、施設内の設備の状況や利用者ニーズを踏まえ、指定管理者の有する専門性・技術・医療機関等との幅広いネットワークを活かして創意工夫を行い、桜の園城北館ならではの魅力あるサービスを提供するための検討を行う必要がある。特に、医療的ケアへの対応については期待されており、市と協議しながら、実施に向けて検討されたい。その上で、指定管理者の法人内の施設を含めた他施設との連携、施設のPRなど、利用率の向上に向けた取り組みを進められたい。</p>		

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡市桜の園城北館] 課名 [障害福祉企画課]
 指定管理者名 [社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(1) 事業の円滑な実施						
(ア) 事業計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された	4	4	4	3	3	3.6
(イ) 仕様書に掲載されている3年後の目標を達成しているか(1日平均利用者数:施設入所支援50人、生活介護(入所)50人、短期入所5人、生活介護(通所)30人)	3	3	4	2	2	2.8
(ウ) 事務事故が発生していないか	5	4	5	3	3	4
(2) 適正な人員配置						
(ア) 専門的な資格を有した人員について、適切な人事配置が行われた	4	5	4	3	3	3.8
(イ) 施設運営上必要となる職員の教育・研修が計画的に実施された	4	4	4	3	3	3.6
(3) 安心・安全を最優先した施設の維持管理						
(ア) 専門技能を有した第三者への業務委託等を実施し、施設・設備の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された	4	4	4	4	4	4
(イ) 緊急時・事故発生時において迅速な対応と市への連絡・報告がなされた	4	4	4	4	4	4
(ウ) マニュアル等を整備し、適切な防災・救急訓練等が定期的に行われた	4	4	4	4	3	3.8
(4) 庶務事務						
(ア) 健康診断の実施等、利用者の健康把握に配慮し、また個人情報の保護が適正に行われた	4	5	4	4	4	4.2
(イ) 適切な経理がされており、健全な運営がなされた	4	4	4	3	4	3.8
小 計	40	41	41	33	33	37.6

2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者のもつ専門性・技術・ネットワーク等を活かした事業が実施された	4	3	4	3	2	3.2
(イ) 質の向上に向けた取組が積極的に行われた	4	3	3	3	3	3.2
(ウ) 実習生やボランティア等の受入れに対する姿勢や体制を確立し、福祉人材を育成するとともに施設の理解促進を図った	4	3	4	2	3	3.2
小 計	12	9	11	8	8	9.6
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた	4	4	4	3	4	3.8
(イ) 利用者満足の上昇のため、専門的知識、技能習得等職員の資質向上がなされた	3	4	4	3	3	3.4
(ウ) 利用者及び保護者からの意見を積極的に収集する体制を構築し、寄せられた意見等の対応が適切になされた	4	3	4	3	3	3.4
小 計	11	11	12	9	10	10.6
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 地域と利用者、また利用者同士の交流を図る等、開かれた施設運営が行われた	3	3	4	3	3	3.2
(イ) 利用者にとってサービスの向上（利用者に応じたレクリエーション活動、食事内容・送迎サービスの充実等）を図る取組を積極的に行った	4	3	3	3	4	3.4
(ウ) 施設利用者との良好な関係の保持のための取組を積極的に行った	4	4	4	3	3	3.6
(エ) 定員に対する利用者の現状を把握し、利用率の向上がなされた	3	3	3	2	2	2.6
小 計	14	13	14	11	12	12.8
合 計	77	74	78	61	63	70.6

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】

- ・令和元年度の赤字から令和2年度は黒字経営に改善された。
- ・指定管理者の有するネットワークを活かし、他の施設と連携した事業が行われている。
- ・利用者が定員の6割に留まっているが、利用率の向上のための取組があまり見られない。

【B評価委員】

- ・概ね良好な運営が達成されている。
- ・利用者のターゲットの絞り込みが必要ではないか。医療的ケアが必要な方、機能訓練が必要な方について、法人が有する医療的な専門性を提供していただきたい。
- ・情報発信、特に事業所の強みの発信を更に強化していただきたい。
- ・利用者の平均年齢が若い（30代）うちに、家族に対しても必要な情報提供を行っていただきたい。
- ・指定管理の状況にとらわれず地域に必要とされているサービスについて、行政に提案していただくことが必要だと思う。

【C評価委員】

- ・利用者数増加のための工夫をしてほしい。
- ・食事、入浴、送迎のニーズに変えられるほどの活動内容にしてほしい。
- ・研修などを継続して行ってほしい。
- ・利用者の個別の対応ができていると感じた。
- ・今後もイベント等で地域の方とのつながりを大切にしてほしい。

【D評価委員】

- ・利用者の増加は安定した収入につながるため、利用者のニーズを把握し城北館の方向性（特色）を明確化しながら、どうしたら利用者増につながるかの具体的な検討をお願いしたい。
- ・施設内のスタッフだけでなく、町内（地域）やボランティアなど様々な人が集まる活気ある施設として、市内全域への周知をしてほしい。
- ・利用者のニーズと施設の特色がマッチできれば満足度も向上し、利用者増につながると思う。
- ・法人としてのスケールメリットを活かし、法人内の他の障害者施設との連携（情報共有）や、市内の計画・委託相談事業所や「まいむ・まいむ」との連携など、幅広い活動をお願いしたい。

【E評価委員】

- ・利用者のターゲットが定まっていない。
- ・今ある資源をメリットに変えて対応すること等が検討されていない
- ・指定管理者の有する専門性・技術・ネットワーク等の資源が活用されていない。
- ・他施設にない特徴をアピールできておらず、PR不足に感じられる。

評価委員会としての意見

事業報告書等から概ね計画どおりに事業は実施されており、利用者の健康管理や施設の維持管理業務などについて適切に行われている。

一方で、利用者数は目標を達成できていない。まずは利用者ニーズを把握し、指定管理者が有する資源を踏まえた施設運営の方向性を定めることが必要だと考える。その上で、法人内の施設を含めた他施設との連携、施設のPRなど、利用率の向上に向けた取り組みを進められたい。